

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	声優演技Ⅰ	
科目基礎情報					
開設学科	声優・演劇科	コース名	声優コース	開設期	前期
対象年次	2年次	科目区分	必須	時間数	105時間
単位数	3単位			授業形態	実習
教科書/教材	テキスト、資料などは授業中に指示する。				
担当教員情報					
担当教員	ヨシダ朝、成田カイリ、熊谷ニーナ		実務経験の有無・職種	有・声優、俳優	
学習目的					
「表現力を高める」これがこのゼミのテーマです。そのためには1.読解力（認知）2.想像力（判断）3.コミュニケーション能力（操作）の3つをこの順番で鍛えていくことが必要。この流れを理解して体得することがねらいです。					
到達目標					
演劇のレッスンに留まらず、社会生活を営む上でも、相手とどう関係を築いていくかはとても大切な課題です。相手の言葉や行動をきちんと把握して（認知）、どう対処すべきか思い描き（判断）、相手と積極的に関わる（操作）、これができるようになることを目標としています。					
教育方法等					
授業概要	この授業では「アウトプット」することをレッスンの柱としています。読解力、想像力が身につかない原因の一つとしてあるのは「インプット」だけで終わっているからです。いくら良いものを吸収しても、自分の中に溜めこんで外に表現しなければ、誰の心を動かすこともできない。感じたことを「声に出す」「文字や絵に起こす」「体で表現する」というアウトプットが不可欠です。このゼミでは生徒に積極的に発言させ、体を使って表現させることを目指します。				
注意点	学生には積極的な授業参加を求めます。単に出席をして話を聞いているだけでは、このゼミの本来の目的から離れてしまいます。出席数ではなく、授業への関わり方を重視します。頭だけの発想を越えて、身体からの発想を獲得する手段としてエチュード(インプロ)を毎回行います。またテキスト（素材）を使った稽古を行い、その延長上に年数回の発表会を行います。 授業時数の4分3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	発表会	60%	年数回の発表会や、毎回の授業における発表内容によって評価する。		
	平常点	30%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する。		
	レポート	10%	毎回の、あるいは定期的なレポートを、授業内容の理解度を確認するために行います。		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	ジャンル別に作品の読解・解釈0		世の中にあふれている様々な素材を使って想像力の入口と出口を探り表現力を高めることを説明し理解する		
2回	ジャンル別に作品の読解・解釈1		アニメ、漫画、絵本の読解・解釈		
3回	ジャンル別に作品の読解・解釈2		絵画、彫刻の読解・解釈		
4回	ジャンル別に作品の読解・解釈3		映画、音楽の読解・解釈		
5回	ジャンル別に作品の読解・解釈4		街中の音、写真の読解・解釈		
6回	ジャンル別に作品の読解・解釈5		戯曲、諸説、俳句、詩の読解・解釈		
7回	ジャンル別に作品の読解・解釈6		手紙、コンビニのレシートの読解・解釈		
8回	ジャンル別に作品の読解・解釈7		商品のパッケージ、本の帯などあらゆる素材を用いる		
9回	舞台作品表現①		骨太の戯曲①を使って40分～60分の舞台作品を創る。役を演じることによって表現力を高める		
10回	舞台作品表現②		骨太の戯曲②を使って40分～60分の舞台作品を創る。役を演じることによって表現力を高める		
11回	舞台作品表現③		骨太の戯曲③を使って40分～60分の舞台作品を創る。役を演じることによって表現力を高める		
12回	舞台作品表現④		骨太の戯曲④を使って40分～60分の舞台作品を創る。役を演じることによって表現力を高める		
13回	舞台作品表現⑤		骨太の戯曲⑤を使って40分～60分の舞台作品を創る。役を演じることによって表現力を高める		
14回	舞台作品表現⑥		骨太の戯曲⑥を使って40分～60分の舞台作品を創る。役を演じることによって表現力を高める		
15回	舞台作品表現⑦		骨太の戯曲⑦を使って40分～60分の舞台作品を創る。役を演じることによって表現力を高める		